

# アンデレ便り

## 降臨節を迎えるにあたり

教会歴では、来週の日曜日から 2010 年の始まり、降臨節を迎えます。2000 年前、パレスティナ地方に住む多くの人たちは、救い主が来られることを、今か今かと待ち望んでおりました。私たちにとっての待望信仰は、神の右に座しているキリストが再びこの人間世界に来ることです。そのための備えの期間が降臨節です。私たちは有限の世界に住んでいることを再認識する必要があります。ルカ福音書12章の、「おろかな金持ち」のたとえに耳を傾けたいと思います。

ある金持ちの畑が豊作となり、作物をしまっておく場所もなくなり、考えたあげく、倉を壊して、もっと大きいのを建てることにしました。そこで「こう自分に言ってやるのだ。『さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ』と」。この金持ちの人生観に対して、神は、「愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか」と警告を発するのです。

「自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者」に対して、神は厳しい裁きをくだされます。神の前に豊になる自分の発見が求められます。

## 定期教区会

11月23日(月)に開催され、提出された11議案すべてが可決されました。

### 財政・宣教問題

教会信徒の高齢化により、戦後からの教会を支えてくださった方々の多くが天に召され、教会の財政に影響を及ぼしつつあります。一方、新たに堅信礼を授かる者の殆どが若年層で、この人たちが教会財政に寄与することは困難であり、従って、人件費や宣教に関わる費用に影響を及ぼしております。来年度は大幅な人事異動が計画されている関係もあり、教区積立金、いわゆる「タンス預金」200万円を切り崩さなければ教区予算が成立しない事態となりました。議員・代議員からは、交通費や会議費などを削減する方策の検討が求められました。

主教諮問機関の宣教検討委員会では、様々な角度から教会の現状を分析し、「教区的視野にたった宣教の観点から、各教会の宣教方策に対して具体的な提言をし、教区と当該教会との協働体勢が構築可能な委員会の設立を来年の教区会に提案することになりました。

### 神戸聖ミカエル大聖堂耐震改修工事

大聖堂の延命に関わる、大聖堂耐震工事の実施が可決されました。この工事により、大聖堂は40年以上耐用年数が延びることが期待されます。納骨堂設置、屋根ペンキ塗り、礼拝堂の防音及び音響向上、将来、パイプオルガンが与えられるときに備え、設置に必要な工事も同時に施行されます。

### セクシュアル・ハラスメント関連

セクシュアル・ハラスメント対策委員会、調査委員会、相談窓口及びガイドラインが承認され、教区内相談員には、北谷由紀子姉（鳥取聖ルカ教会信徒）と幣原直子姉（神戸聖ミカエル教会信徒）が、教区外相談員として、吉田裕樹弁護士（京町法律事務所・神戸）が就任しました。来年度の早い時期に、これに関わる文書が各教会に配布される運びとなります。

教会において決して起きてはならないものの一つがセクシュアル・ハラスメントです。「偽使徒、ずる賢い働き手…サタンに仕える者（Ⅱコリント 11:13-15）」が教会に忍び込み、「自分自身の欲望に引かれ、唆されて（ヤコブ 1:14）」、自己の立場の優位性を他者に誇示し、ハラスメントを誘発するのです。より多くの人たちと親交を深め、相手への理解を拓けると共に、立場や環境、生活習慣が異なる個々人に対して、配慮ある対応が求められます。この姿勢が教会に浸透することにより、教会の交わりがより豊かにされてくるはずで

### 他教区、海外教会との宣教協働

宣教協働に関し、教区外に目を向ける必要があります。九州・沖縄教区と神戸教区が、平和に関わるプログラムを共有するための協議がなされ、実行に移されることが期待されます。MtS では、今年 10 月に東アジア協議会が発足し、特に大韓聖公会との連携が密になります。神戸教区においても、特に、東アジアの教会を視野に入れた宣教協働への模索が、2010 年から開始されることが望まれます。

## ロンドンでのクリスマス

ずっと昔の話ですが、ロンドンの教会で降臨節を過ごし、クリスマスを迎えたことがあります。降臨節になりますと、色々なところから牧師一家にプレゼントが寄せられるのですが、それらは開封されることなく、居間に立てられたクリスマスツリーの根っここのところに置かれます。イブの深夜礼拝に参加し、一眠りしたところで、25 日の昼食「クリスマス・ディナー」を共にしました。その後、クリスマス・プレゼントが開封されました。親せき、友人から贈られたプレゼントを開封するたびに喜びの声をあげている家族の人たちをじっと見つめている自分は、何となく場違いな感じで、疎外感すら抱いておりました。自分にはプレゼントは無縁だと思っていたからです。ところが、ツリーに残された最後のプレゼントを牧師が持ち、それを私にくださったのです。それを受け取ったとき、本当に感激しました。ホームステイで初めてあった人たちのなかにあり、異国の地で、たった一人でクリスマスを迎える私の心情を十分に理解してくださった牧師一家に、心から感謝いたしました。

翌日の 12 月 26 日「ボクシング・デー」は祝日で、みんなでロンドン動物園に行くことになりました。24 日から降り続いた雪で道路は真っ白です。車が交差点に差し掛かったとき、左手から車がブレーキもかけずに、私たちの車の左側に突っ込んできたのです。「ドーン」という音と共にボンネットの蓋があいて蒸気が噴き出し、車はスピンを始めましたが、ここで記憶が途絶えてしまいました。

動物園にはとても行くことが出来ず、歩いて牧師館に引き返し、部屋に帰ったとき、頭にこぶができていることに気がつきました。とんだ「ボクシング・デー」でした。